

追手門学院小学校 校長 井上 恵二

飛躍的に進む本校のICT教育環境と コロナ禍に起因する影響について

日ごろは山桜会の皆様にはご支援、ご協力いただき誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

メディアラボが完成して1年、BYODとご支援いただいた電子黒板のおかげで小学校のICT化が本格的に進みました。子どもたちが、机上にノートPCを準備し授業が始まる

ことは当たり前の様子となりました。授業の中では、先生が電子黒板を活用し、子どもたちのノートPCから送信された意見を拡大します。そして、皆で共有します。また、子どもたちは自分で調べたことをパワーポイントにまとめて発表することもあります。もう ICTは特別ではなく、日常となっています。



新しい教育が進む中、学校は新型コロナウイルス感染症の大きな影響を受けました。3月に6年生(131期生)を送り、4月に1年生(137期生)を迎

えるという当たり前の年度末、年度初めを迎えることができませんでした。教育への大きな影響は、Otemon English Villageの中止から始まりました。そして、2月28日からの自宅待機の措置は春休みまで延長、さらに GW明けまで続きました。こうした措置の中、卒業式は密集を避け、時間短縮して行われました。同じように入学式も2部制で密集を避け、時間短縮で計画していましたが、緊急

事態宣言によって中止となりました。その他、中止や延期になった行事は数えきれません。ハワイ国際交流の中止、修学旅行の延期、5年生オリエンテーションの中止、健康診断等の延期、林間学舎の中止、校外学習の中止、臨海学舎の中止、PTA行事の中止・・・。行事以外にも、多くの教育活動で影響が出ています。これからも学校教育に与える影響は計り知れません。1日も早い安心、安全な学校生活の再開を願うばかりです。



在校生は不参加で、間隔をあけて着席する卒業生



保護者も間隔をあけて着席







貝塚司法書士事務所 検索

小83·大手前中高26期 塩見 啓二 小85·大手前中高28期